

1 学校教育目標

人間としての尊厳を確立し、世界にはばたく人となる国民の育成とウェルビーイングの向上を目指し、生徒や地域の実態を踏まえ、次のように本校の教育目標を定める。

- 1 健康（体） 2 明るく楽しく（徳） 3 少しずつ賢くなる（知）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○人権教育を中心に知・徳・体バランスよく教育し、生徒の自立を目指す学校 ○生徒・保護者・地域の信頼のもと、厳しく、温かく育む学校 ○教員が連携し、組織的に生徒一人一人の課題に取り組む学校
○児童・生徒像	○向上心を持ち、互いに切磋琢磨しながら、自ら学習に取り組む生徒 ○自他の生命や人権を尊重する心や規範意識を持ち、礼儀正しく品位のある生徒 ○健康に留意し、自らの体力向上を目指し、鍛える生徒
○教師像	○教育者としての使命感を持ち、わかる授業を実践できる教師 ○生徒一人一人の気持ちに寄り添い「厳しく・温かく・わかる言葉」で指導できる教師 ○主体的かつ適切な判断のもと、組織的に生徒の知・徳・体を鍛えることができる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状及び成果と課題>

－学校について－

〔成果〕

- 学校生活は授業を大切にすることを基本とし、落ち着いた、真面目な雰囲気の中で教育活動が行われている。特に授業規律の徹底が図られている。
- 地域は協力的で、地域の学校として大切にされ、円滑に学校運営が進められている。

〔課題〕

- 真面目な雰囲気が常に保たれる反面、不登校の生徒が多い。

－生徒について－

〔成果〕

- 明るく、さわやかで、気持ちの良い挨拶ができる。
- 集団での生活の仕方、マナーなどを理解し、他者への思いやりの心をもった生徒が多い。
- 学校行事に真剣に取り組むことができる生徒が多い。
- 部活動に熱心に参加する生徒が多い。

〔課題〕

- 主体的にチャレンジし成果を上げようとする姿勢がやや弱い。

－教職員について－

〔成果〕

- 生徒の個々の課題について熱心に取り組む教員が多い。
- 自己の校務について責任感を強くもって遂行できる。

〔課題〕

○経験の浅い教員が多く授業改善をはじめ OJT を更に進める必要がある。

○課題に気付く力を身につける必要がある。

－保護者・地域について－

〔成果〕

○PTA、開かれた学校作り協議会、おやじの会、おやじの会 OB、近隣9自治会など地域や保護者が協力的で、広い心で本校の学校教育に理解を示してくださり、学校運営を円滑に進めることができる。

〔課題〕

○ごく一部ではあるが、学校の指導に理解いただくのに時間がかかる家庭があるが、協力して子どもを育てる姿勢を貫き、ご理解いただく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権教育の推進	○	○	○	○	○
3	保護者・地域と連携した教育の推進	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
学力向上 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身につける指導をする。 ・基礎的・基本的な学力を充実させるための指導の工夫を行う。	・令和6年度区調査通過率全学年全教科65% ・年度末到達度確認テスト正答率65%	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>			

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・ 改善	区学力調 到達度確 認テスト を活用し た到達度 調査の実 施	1・2年生 国語 数学 英語	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学年生徒を対象に、国語科・数学科・英語科の授業時間及び学びタイムに到達度確認テストを実施し、生徒の自己採点と教員による解説の時間をとる。 結果を分析し、補充授業を行う。 	結果の分析 定着度の低い 問題の再確認	平均正答率が 目標値を超え る。	自己評価の際に記入		
2 継続・ 改善	朝の「学び タイム」 (必要に 応じて個 別取出指 導)等補充 指導	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科 ※取り出 し教室 は、 単元テストで学力 定着の悪い生徒の 生徒	定期考 査前の 放課後 毎朝始 業前 25分 (教科 は学年 で決め る)	<ul style="list-style-type: none"> 朝の「学びタイム」 [指導体制]各学級担任と学年副担任(全学年教員) [取組内容] 毎朝、学習内容の復習・確認を行う。漢字の読み、書き・計算・英単語を中心基礎学力の定着 自学自習の力の養成 [使用教材]Qubena 漢字・計算・英単語のプリント ・補充教室 [取組内容] 単元テスト等で基礎の定着が悪い生徒を取り出して授業を実施 	学習コンテ スト(漢字・計 算・英単語) の実施	学習コンテ ストの正解率9 0%以上の生 徒が全校生徒 の70%を超 える。			

3 新規・継続	授業改善 ICT機器の活用を進める。	全教員 全生徒 全教科	毎時間 年2回	<p>[毎時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立の徹底 ・切磋琢磨し高め合う集団作り指導 <p>[年2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職による授業参観と指導 ・教師相互による授業参観月間 ・生徒による授業評価 ・研究授業の実施 <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の実施 ・小中連携研修による ・学力調査の分析 ・肯定的な声かけの研究 	区学力調査 通過率 生徒による 評価 ICT活用状況 調査	通過率前年比UP 主体的に学びわかる授業85%以上 ICT機器を週1時間以上使用した教員が80%以上。
4 継続・改善	家庭での学習習慣の確立を図る。	全生徒 全教員 全教科	全授業 学活	<ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルを朝の学びの時間、家庭で活用する。 ・家庭での活用、休校時の活用を工夫する。 ・「家庭学習ノート」「生活の記録」を配付し、記入させ毎日回収し、家庭学習の意欲を高める指導を継続する。 ・Qubenaシートを活用した補習を実施する。 	学校生活アンケート	「家庭学習はしっかりしている。」の肯定的回答率80%以上

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－２		人権教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上(いじめ防止を最重要課題とする) 思いやりの心を育てる 特別支援教育の視点に立った個別支援教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> 人権学習週間を年 3 回実施（講話、学級指導、全体で学ぶ時間などを取り入れ、多面的に実施する） いじめの早期発見・早期対応、体罰 0 の達成 道徳地区公開講座などで意識を変容させる。 	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上（いじめ防止）	人権学習週間で、生徒が人権についてよく考えていることがアンケートや感想文から読み取れる。（90%以上）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のきまりを守り、規律ある生活をさせることでいじめの芽を摘む。 人権学習週間の年 3 回実施—校長講話、学級指導、全校で学ぶ時間などを取り入れた多面的な学習 生徒自らが、いじめをはじめとする人権課題について考える取組の実施（いじめをテーマにした生徒会のパネルディスカッションなど） いじめ防止を含めた学校生活に関するアンケート実施 いじめ防止対策員会を企画会の中に設置し週 1 回確実に実行し機能させる。 特別支援教育推進委員会において不登校等で心の問題を抱える生徒の問題解決に当たる。 	自己評価の際に記入		

<p>思いやりの心を育てる (自尊感情とともに自己肯定感を高める)</p>	<p>学校・学年行事、道徳授業、地域行事の後の感想文を読み取り、思いやりの心や自尊感情、自己肯定感が高まったことを確認する。 (80%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活の仕方の指導を学校生活全般で行い、集団が気持ちよく生活できるようにする。 ・ 道徳教育推進教師を中心として効果的な道徳授業を進めるとともに、道徳授業地区公開講座年2回実施する。 ・ 生徒の委員会活動をとおして自尊感情、自己肯定感を高める。 (学校・学年行事での係活動、挨拶運動、環境整備活動など) ・ 地域清掃等校内ペンキ塗りなどのボランティア活動や職場体験、地域行事などを通して自己肯定感を高める。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>
---	--	---	--

重点的な取組事項－3		保護者・地域と連携した教育の推進		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>地域の大人が地域で生活している生徒を育てるという意識を高め、生徒の社会性を育成する。</p>	<p>保護者・地域と連携した行事や教育活動のさらなる充実を図る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域の教育力の活用 (学校から地域へ)	地域行事に参加する生徒が感想等で自信や満足感を感じ自分の住んでいる地域に愛着を感じている割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化・伝統の学習 生徒の地域行事への参加、発表 地域掲示板や学校だより、ホームページによる教育活動の周知	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> 自己評価の際に記入 </div>		
地域の教育力の活用 (保護者、地域から学校へ)	生徒の感想文などにより、保護者や地域の方との協働について感謝の気持ちが表れ、意欲の向上が見られる割合が参加者の90%以上	生徒の奉仕活動など (毎日の「朝の挨拶運動」の実施) <ul style="list-style-type: none"> 進路指導における3年生全員面接の指導協力 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他 (学校教育活動全般について)

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。